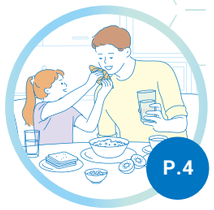
UBE株式会社

日本語版

CORPORATE PROFILE

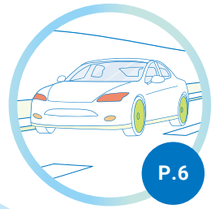
UBE Transform Tomorrow Today

地球から受け取ったものを
大切に、安全に、新しい価値へと変えていく。



暮らしのそばに × UBE

ポリイミド P.4
医薬 P.5
C1ケミカルズ・工業薬品 P.5



いつもの街角に × UBE

高機能コーティング P.6
コンポジット P.6
ナイロンポリマー P.6
フェノール樹脂 P.7

世界に地球に × UBE

分離膜 P.8
硫安（カプロラクタム） P.8
高純度窒化珪素粉末 P.8
ウレタンシステムズ P.9
無機長繊維 P.9

創業の精神　Founding Principles

「共存同栄」、「有限の鉱業から無限の工業へ」

経営理念　UBE Corporate Philosophy

技術の探求と革新の心で、
未来につながる価値を創出し、
社会の発展に貢献します。

経営方針　UBE Management Principles

1.「倫理」	高い倫理観を保ち、法令および社会規範を遵守します。
2.「安全と安心」	地球環境保全に努め、安全・安心なものづくりを行います。
3.「品質」	お客様と社会の信頼に応える品質をお届けします。
4.「人」	個性と多様性を尊重し、健康で働きやすい職場をつくります。

パーパス（存在意義）　Purpose

希望ある化学で、難題を打ち破る。

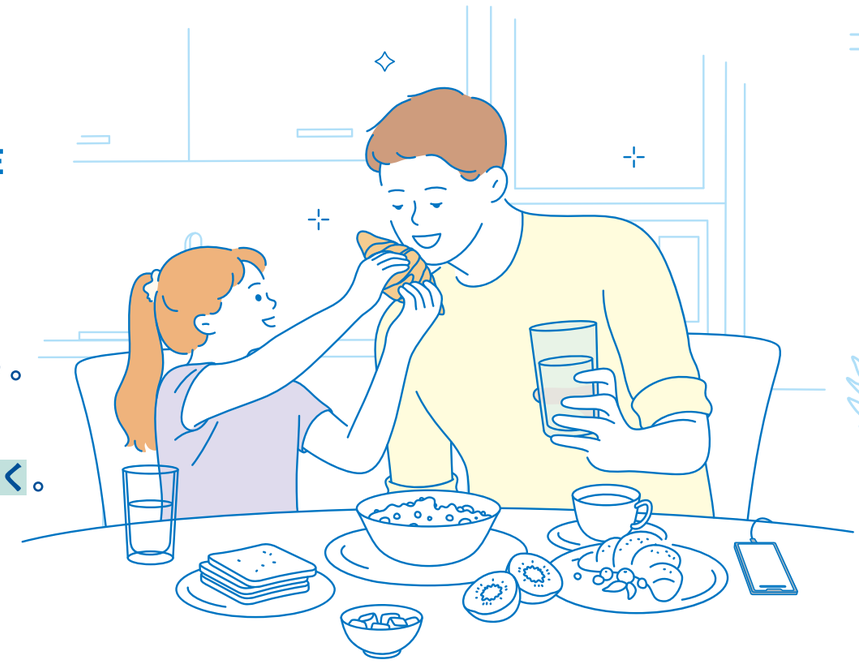
創業以来の歴史の中で培ってきたモノづくりの技術を活かし、
社会に必要とされている価値を、社会が求める安全で
環境負荷を極限まで低減した方法で創り出し、人々に提供していくこと。
これにより、人類共通の課題となった地球環境問題の解決に、
また人々の生命・健康、そして未来へとつながる
豊かな社会に貢献すること。

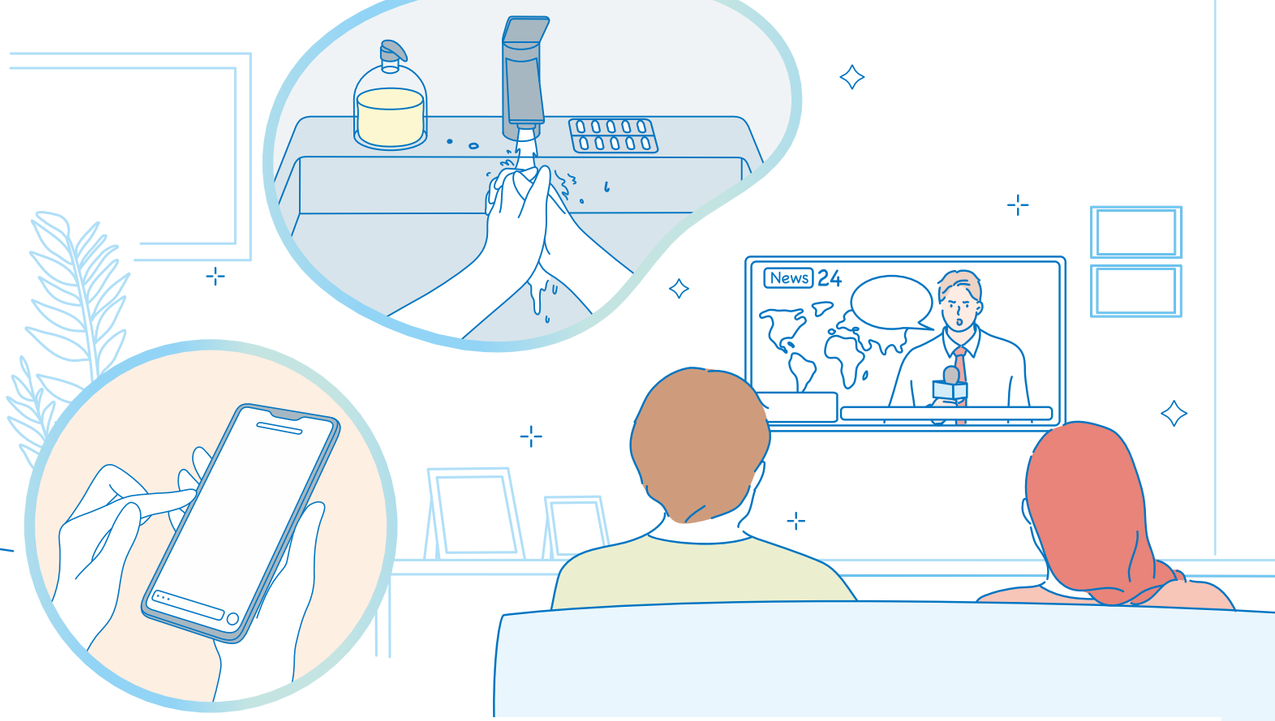
スペシャリティ化学とは？

スペシャリティ化学とは、特定の用途やニーズに応じて高機能・高付加価値を実現する化学製品のことです。UBEは、エレクトロニクスやモビリティ、環境・エネルギー分野に向けた先端材料を通じて、社会課題の解決や持続可能な未来の実現に貢献しています。

暮らしのそばに × UBE

一日がはじまり、
家族の笑顔が響き合う。
幸せに、すこやかに
人々の毎日を支えていく。
UBEは今日も、
あなたのそばに。





モバイル機器やモニターに必須の重要素材もUBEから

ポリイミド

ポリイミドは強度と耐熱性、そして電気信頼性に優れた樹脂です。テレビやスマートフォン、自動車から航空宇宙まで幅広い分野で使用されています。
UBEは、原料のBPDAからワニス、フィルム、パウダーまでを一貫生産する世界唯一のメーカーであり、自社原料と独自の成形加工技術により、さまざまな特徴のある製品を生み出しています。

主な製品・用途　テレビ、スマホの電子部品基板、有機ELディスプレイ基材、耐熱絶縁、半導体製造装置部品など

ポリイミドフィルム
世界
トップシェア!
（液晶ディスプレイ向け COF用途）

ADVANCING BUSINESS SOLUTIONS

最新テクノロジーにポリイミド 環境貢献とイノベーションの両立

UBEは、環境に配慮した「水溶媒ポリイミドワニス」の開発に取り組んでいます。従来のポリイミド樹脂には、有機溶剤が使用されていますが、UBEの「ポリイミドバインダ」は水を溶媒として使用しており、環境負荷低減を図っています。また、従来のポリイミドと比較して低温熱処理を可能にしています。
さらに、充電して繰り返し使える電池として、携帯電話やパソコン、ドローン、電気自動車、電動バイクなど幅広い用途で使われているリチウムイオン電池。近年、電池の高容量化が進んでいますが、電池寿命が縮んでしまうという課題があります。UBEは、この課題を解決するために、電池の短命化を抑制できる「ポリイミドバインダ」の開発を行っています。「水溶媒ポリイミドバインダ」は、一般的なバインダに比べて低温で熱処理できることから、温室効果ガス(GHG)排出量の削減が可能です。
日々の研究により、環境変化に応じたポリイミド製品を生み出すことで、世の中の問題を解決し、未来への可能性がさらに広がっています。

医薬品の原料（原薬）でWell-beingを支える

医薬

UBEは、化学メーカーとして長年培った有機合成技術を元に自社単独、もしくは、製薬メーカーと共同開発を行う創薬研究や医薬品の効能の元となる原薬や中間体の製造を行うCDMOを営んでいます。
これからも、業界トップクラスを誇る生産能力や、日米欧三極に対応した高度な品質管理システムに磨きをかけ、医療分野のさまざまなニーズに応えていきます。

主な製品・用途　抗アレルギー剤、血圧降下剤、緑内障・高眼圧症治療剤、抗血小板剤など

共同開発医薬品
4剤
を上市

リチウムイオン電池や半導体の製造にも必要不可欠

C1ケミカルズ・工業薬品

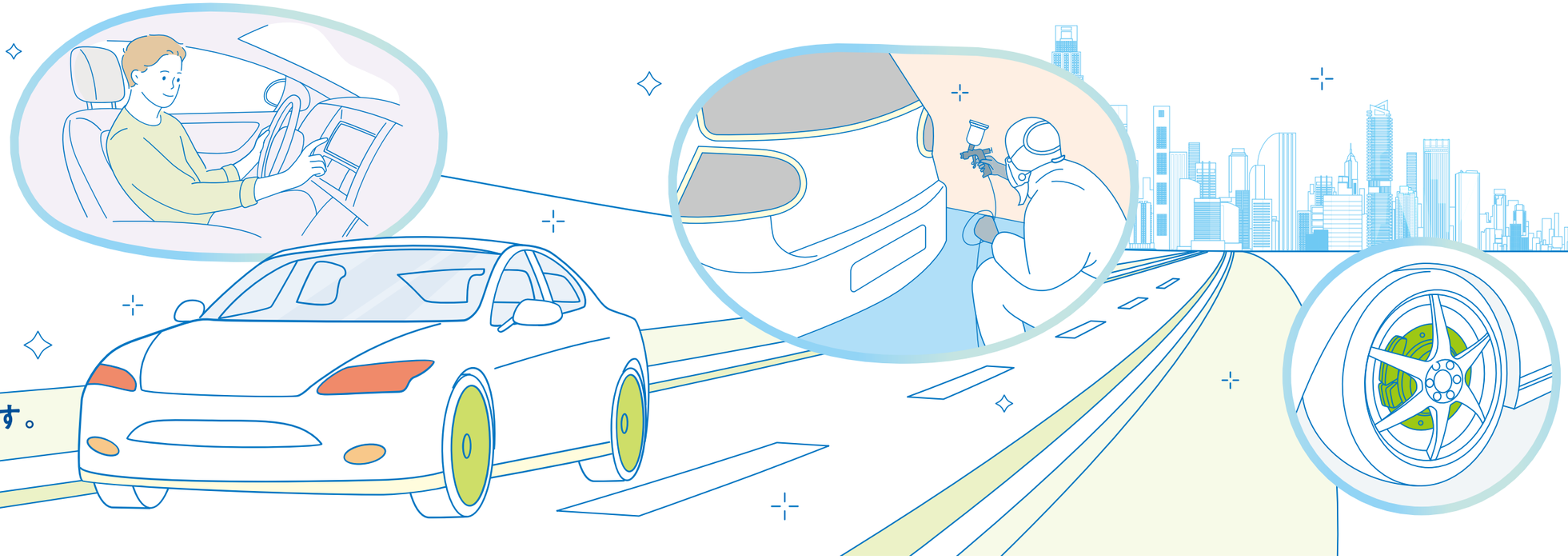
高純度硝酸や高純度カテコール、高純度DMCなどを、半導体製造プロセス向けの薬液原料やリチウムイオン電池用電解液原料として供給し、デジタル化社会を支えるさまざまなケミカル製品を展開しています。
また、塗料、農薬、電子材料など日常生活を支える製品の素材を広く提供し、快適で安全な社会の基盤を支えています。

主な製品・用途　シリコンウエハーの洗浄剤・エッチング液、リチウムイオン電池用電解液など

DMC
炭酸ジメチル
国内唯一の
メーカー

いつもの街角に × UBE

ドライバーを心地よく
包み込むシートに。
そして、電気自動車にも。
UBEの技術が
未来のモビリティを支えます。



街のいたるところで高耐久性・デザイン性をサポート

高機能コーティング

車載シートなどに使われる合成皮革や、環境負荷の少ない水系塗料などの原料となるPCD（ポリカーボネートジオール）やPUD（ポリウレタンディスパージョン）は、ＵＢＥが提供する「スペシャリティ化学」ソリューションにおける主力製品のひとつです。
今後、その活用領域はさらに拡大することが予測され、グローバル市場を牽引する高付加価値・環境貢献型製品といえます。

主な製品・用途　塗料、コーティング（PUD）、合成・人工皮革（自動車・工業）、接着剤など

PCD
ポリカーボネートジオール
（合成皮革などの原料）
世界
トップシェア!

水素EV（FCV）部品や車の内外装パーツの重要素材

コンポジット

ナイロンをはじめ、さまざまな樹脂と添加剤を活用し、お客様の要求に応じた高性能樹脂を提供。FCV の高圧水素タンクライナー用樹脂や、自動車軽量化に寄与する製品を開発し、独自の付加価値で社会のニーズに貢献します。

主な製品・用途

自動車部品・電気電子部品・機械部品・
産業用チューブなど

リチウムイオン電池包材や食品包材用フィルムにも

ナイロンポリマー

破断・突刺強度、酸素バリア性などに優れ、食品包材やシャンプー・リンスなどのパウチ包材、機械部品包材等に広範囲な用途で活用されています。またリチウムイオン電池用包材としても使用されています。

主な製品・用途

食品包材、シャンプー・リンスなどのパウチ包材、機械部品包材、リチウムイオン電池用包材など

高い耐熱・耐久性で、半導体の信頼性を担保する重要素材

フェノール樹脂

優れた耐熱性・耐久性・難燃性・接着性を持つフェノール樹脂に、さらにお客様のニーズに合わせて新たな機能を加え、より高性能な製品として提供しています。とりわけ、高度な性能が求められる半導体関連の用途で採用されており、スマートフォンや家電、自動車など、私たちの暮らしを支える先端製品の品質向上に貢献しています。
将来的にもさらなる高付加価値化が期待されるスペシャリティ化学ソリューションです。

主な製品・用途　半導体IC封止材用、モビリティ封止材用など

ADVANCING BUSINESS SOLUTIONS

次世代モビリティの進化を左右するUBEのスペシャリティ化学製品

電動化・軽量化・環境性能といった進化が求められる次世代モビリティ。その変革の裏側では、ＵＢＥのスペシャリティ化学製品が数多く活躍しています。
たとえば、水素自動車の燃料タンクに使われるコンポジット素材は、軽くて強い性質が特長で、水素を安全に保つ役割を果たします。窒化珪素は電動モーターの軸受けに使われ、静音性と耐久性を支えています。電気自動車の心臓部であるリチウムイオン電池には、DMCやセパレータなど、ＵＢＥが提供する素材が欠かせません。
内装材には、柔軟性と耐久性を兼ね備えたPUD（合成皮革用樹脂）がシートなどに用いられ、ゴム製品はタイヤや各種シール材としてモビリティの基本性能を支えます。
こうした素材ひとつひとつが、見えないところでクルマの進化に生かされ、快適性・安全性・環境性能のすべてに貢献しています。

世界に地球に × UBE

地図に描かれるような
大きなスケールと、
地球を見おろすほどの
広い視野をもって。
UBEは世界に貢献しています。

エネルギー・環境分野で活躍する精製・分離のコア技術

分離膜

分離膜は、混合ガスの中から特定のガスを効率よく取り出す機能を有する製品です。
UBEのガス分離膜モジュールは、ポリイミド製の微細なストロー形状の中空糸膜が混合ガスを分離します。
耐久性が高く、長寿命製品として、バイオガス精製、窒素富化、水素回収、除湿、有機蒸気脱水などさまざまな用途で幅広く利用されています。

主な製品・用途　バイオガス精製、窒素富化、水素回収、除湿、有機蒸気脱水など

バイオメタン
製造向けCO_2分離膜

グローバルで200プラントを超える採用実績

ナイロン製造過程から世界の食を支える肥料を生産

硫安（カプロラクタム）

カプロラクタム（ナイロン6の原料）の製造工程で生産される硫安は、窒素肥料として世界各地で農業を支えています。大粒硫安は散布効率が良く、ドローン施肥などのスマート農業への展開も期待されています。

主な製品・用途
ナイロン6の原料、肥料、肥料原料など

EVやジェットエンジンにも使われるセラミック材料

高純度窒化珪素粉末

UBEの窒化珪素は、独自のイミド熱分解法を用いて製造される高品位粉末です。微細構造の制御が可能な特性により、自動車産業から航空機、電子産業に至るまで幅広い分野で多様な部品に実用化されています。

主な製品・用途
軸受、基板、切削工具など

電動車のモーター用ベアリング
インバータ用放熱回路基板
ハイエンド領域のトップメーカー

強さとしなやかさを両立し、幅広い産業で活躍

ウレタンシステムズ

ウレタン樹脂は、柔軟性が高く、耐久性に優れ、ゴム・プラスチックや金属の代替材料として、さまざまな分野で採用されている多用途な材料です。UBEのウレタンシステムズは、ウレタン樹脂製品の開発やグローバルでの製品供給およびサービスの提供が可能です。半導体製造時に使用される部材などの先端産業から、タイヤ、ロール、コンベアベルトなどの産業機械やゴルフボール等のスポーツ用品に至るまで幅広い分野で貢献しています。

主な製品・用途
オフロード車両やレジャー用途のタイヤ、ロール、コンベアベルト、ゴルフボール、塗料・コーティング用途など

航空機を支える、耐熱性・軽量性に優れた独自素材

無機長繊維

UBE独自の技術により生まれた無機長繊維（チラノ繊維®）は、シリコン、金属（チタン、ジルコニウムまたはアルミニウム）、炭素、酸素からなるセラミック連続繊維です。1,000℃以上の高温にも耐える特性は、航空機の燃費改善につながる部品材料の強化繊維として活用が期待されています。

主な製品・用途
航空機エンジン部材など

ADVANCING BUSINESS SOLUTIONS

高機能・低環境負荷を両立するウレタン樹脂材料で世界に貢献

UBEは、スペシャリティ化学分野のさらなる強化に向けて、高機能ウレタン樹脂市場でのプレゼンスを強化しています。2024年に、LANXESS社から業界屈指の製品ラインナップを有するウレタンシステムズ事業を取得。米国・欧州・中国のテクニカルセンター、世界5か所の製造拠点ならびに、70年以上の実績の中で培った、高い専門知識と用途開発のノウハウが加わり、お客様のニーズに対して、これまで以上に高度で多様なソリューションを提供できる体制になりました。この事業は、既存のスペシャリティ製品であるPCD（ポリカーボネートジオール）やPUD（ポリウレタンディスパージョン）と共に、顧客製品の高寿命化に貢献します。また、環境負荷軽減製品をラインナップしており、作業従事者の健康リスクや環境の負荷低減を図っております。更にバイオ由来原料を活用した持続可能な製品開発にも積極的に取組んでおり、カーボンニュートラル社会の実現に向けた選択肢を広げています。ウレタンシステムズ事業では、高い性能が求められるハイエンド用途において、顧客製品の性能や品質の向上に貢献し、社会の高度化・多様化するニーズに貢献します。UBEは今後も、世界中の産業と暮らしを支える高付加価値製品を通じて、スペシャリティ化学の可能性を拡げていきます。

カーボンニュートラルに向けたロードマップ

2020

環境貢献型製品・技術連結 売上高比60%以上を目指すタイムライン

2020~2025年

既存の環境貢献型製品の増加

ポリイミド、分離膜、セラミックス、セパレータ、高機能コーティング、C1ケミカル、合成ゴム、コンポジット

新規材料の上市

エネルギーマネジメント（放熱複合材）

売上高比率 **42%**

2025

省エネ推進・プロセス改善

再生可能エネルギーの最大化

2025~2030年

新規事業の伸長

再生材利用化学製品（複合樹脂リサイクル等）、バイオマス材利用化学製品、CO_2を原料とする化学品製造（CO_2電解）、情報電子（放熱複合材）

2030

事業構造改革

連結売上高比率 **60%**

2030年GHG（温室効果ガス）排出量 **50%削減**（2013年度比）

革新的技術開発

2050

CARBON NEUTRAL

2050年 カーボンニュートラルへ

UBE × サステナビリティ

暮らしに、豊かさに、
スペシャリティ化学で貢献する。
UBEの歩みは、世界のサステナビリティとともに。

創業以来培ってきたモノづくりの技術を活かし、社会が求める価値を、スペシャリティ化学の力で、社会が求める安全で環境負荷を極限まで低減した方法で生み出していきます。
私たちは、気候変動問題（カーボンニュートラル）への対応、循環型社会への貢献（サーキュラーエコノミー）、そして自然環境の保全・復興への貢献（ネイチャーポジティブ）に取り組み、人々の生命・健康、そして未来へとつながる豊かな社会の実現に貢献します。
また、バリューチェーン全体でのGHG排出量削減や、環境貢献型製品・技術の提供を推進し、持続可能な産業の発展を支えます。
ステークホルダーとのエンゲージメント（対話・連携）を深めながら、スペシャリティ化学を通じた価値創造に挑み続けます。

気候変動問題への対応
（カーボンニュートラル）

2050年のカーボンニュートラルを目指し、中期（2030年度）目標である「50%のGHG排出量削減（2013年度比）」を達成するために、事業構造改革や省エネルギー施策の実行等の事業計画を策定し、2028年度には前倒しで達成できる見通しです。

循環型社会への貢献
（サーキュラーエコノミー）

サーキュラーエコノミーの実現に貢献する製品を含む、環境貢献型製品・技術の売上高比率を2030年度までに60%とする目標を掲げています。また、自社操業で排出されるプラスチックなどの廃棄物を有効活用し、削減を目指します。

自然環境の保全・復興への貢献
（ネイチャーポジティブ）

水資源の有効活用や、自社操業における大気汚染・水質汚濁・土壌汚染などの環境負荷低減、さらに、サプライチェーンへの働きかけなども通じて、自然環境の保全と復興、生態系サービスの持続可能な利用に貢献していきます。

UBEグループのマテリアリティ（重要課題）・SDGsへの貢献

成長	スペシャリティ事業の拡大	■「既存のコア技術に基づく事業拡大」と「コア技術の新規獲得／新規事業の創出」の両輪による成長 ■ イノベーションの推進 ■ 次世代に向けたシーズの発掘	■ 顧客満足度の向上 ■ 高品質で安全な製品とサービスの提供 ■ DXによる効率化および顧客・社会価値拡大を通じた利益創出
社会	多様な人財の活躍	■ 人財マネジメント、人財育成 ■ ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの推進 ■ 働きやすい職場作り	■ DX推進人財の育成 ■ エンゲージメントの向上 ■ 健康推進
	労働安全・保安防災	■ 労働安全の推進 ■ 環境安全の推進	■ 保安防災の推進
環境	地球環境問題への対応	■ カーボンニュートラル実現に向けたGHG排出量削減 ■ 化学物質の排出量削減	■ サーキュラーエコノミーの推進 ■ 廃棄物の排出量削減
ガバナンス	誠実で公正な企業統治	■ コンプライアンスの確保 ■ 地域社会との共生	■ 腐敗防止 ■ 効果的な情報セキュリティ対策の徹底

環境貢献型製品・技術ブランド「U-BE-INFINITY®」の推進

U-BE-INFINITY
Blooming a sustainable future

2024年4月に、環境製品ブランド「U-BE-INFINITY®」を立ち上げました。UBEグループが展開する「環境貢献型製品・技術」のうち、特に優れた環境貢献を示す製品・技術に対して当ブランドを付与することで、対象となる製品・技術の付加価値を高めます。現在は右記のWebに掲載の開発品を認証しており、今後も対象製品を増やすことで、環境貢献を推進していきます。

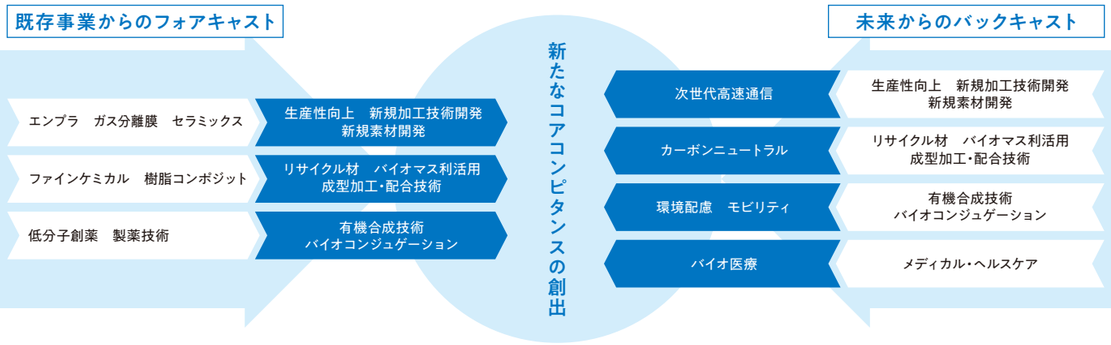
UBE × 研究開発

先端の研究開発体制で生み出す“独自の価値”。スペシャリティ化学は、もっと先へ。

大阪・堺工場内の大阪研究開発センターに新設された「スペシャリティマテリアルアプリケーション棟（写真右側の建物）」では、エンジニアリングプラスチックを主軸としたコンポジット材料開発～アプリケーション開発までを一貫して担う体制を構築しました。お客様・マーケットのニーズに即し、新規材料の供給や、共同開発、ソリューションプロバイダーとしてのグローバル発信などの拠点となります。

コアコンピタンスを生み出すUBEの研究開発

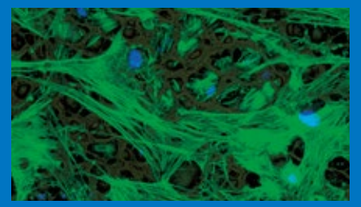
UBEは、サステナビリティ、エネルギーマネジメント、ライフサイエンスの3つを注力分野と定め、バックキャストとフォアキャストの両方からのアプローチで技術開発に取り組んでいます。
将来の社会・環境課題を起点にしたバックキャスティングにより、市場ニーズの変化を予測してターゲット市場・製品を絞り込む一方、既存製品を通じて得られた将来の市場や技術のトレンド情報に基づくフォアキャスティングにより、既存のコア技術を革新して新しい製品の開発にも取り組みます。
この双方向からの開発によって、持続的成長を支える「差別化技術など新たなコアコンピタンスの創出」を実現。特に競争優位性の源泉となる技術の確立のため、国家プロジェクトへの参画、大学との共同研究、スタートアップとの協業などのオープンイノベーションを積極的に活用して、知識や技術、ノウハウを獲得しています。



始まっています、未来を変える化学の一歩

ポリイミド多孔質膜培養基材

バイオ医薬品は、治療が困難であった病気に効果を示す一方で、その品質管理の難しさから、極めて高価な薬剤になることが社会的な課題となっています。UBEが独自開発したポリイミド多孔質膜細胞培養基材は、動物細胞を長期に安定培養できる特長を持ち、バイオ医薬品における課題の解決策として有効です。2023年からは、研究用の細胞培養キットの試作品販売を開始。現在、そのポテンシャルを活かし、複数の共同開発が進行しています。



HISTORY

UBEの歩んできた道は、限りある資源を無限の可能性に広げる挑戦の歴史でした

炭鉱の創業から化学事業の起こりへ

1897 沖ノ山炭鉱組合設立 Ⓐ
1914 宇部新川鉄工所設立
1923 宇部セメント製造株式会社設立
1933 宇部窒素工業株式会社設立
硫安製造開始 化学事業の起こり Ⓑ
1942 4社を合併して宇部興産株式会社を設立

復興と近代化、石油化学への進出

1946 フェノール樹脂製造開始
1951 中央研究所開設（現 宇部研究所、医薬研究所）
1955 カプロラクタム製造開始 Ⓒ
1959 ナイロン6樹脂製造開始
1968 高分子研究所開設（現 みらい技術研究所）

化学事業の多角化、スペシャリティ化学の基礎を築く

1973 カテコール、ハイドロキノン製造開始
1980 医薬品の共同研究開始
1983 ポリイミドフィルム製造開始 Ⓓ
1985 分離膜製造開始

スペシャリティ事業の成長、グローバル化へ

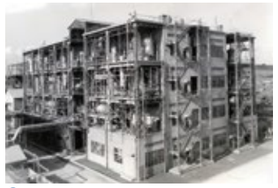
1986 窒化珪素製造開始
チラノ繊維市場開拓開始
1992 炭酸ジメチル（DMC）製造開始 Ⓔ
1993 スペインPQM社に資本参加（現 UBE Corporation Europe, S.A.U.）
1993 TCL社(タイ・カプロラクタム)へ資本参加
(現UBE Chemicals (Asia) Public Company Limitedに繋がる意思決定)

持続可能な成長に向け、スペシャリティ化学を中核とするUBEグループへ

2007 ポリウレタンディスパージョン（PUD）製造開始
2016 大阪研究開発センター開設 Ⓕ
2021 「UBEグループ 2050年カーボンニュートラルへの挑戦」を宣言
2030年度温室効果ガス（GHG）排出削減目標50%削減（対2013 年度）
2022 社名変更し、スペシャリティ化学を中核とした事業会社へ
2025 DMC及びエチルメチルカーボネート(EMC)プラントをルイジアナ州に起工
2025 ウレタンシステムズ事業の取得
2025 スペシャリティマテリアルアプリケーション棟運営開始

Ⓐ 沖ノ山炭鉱

Ⓑ 宇部窒素工業


Ⓒ 宇部カプロラクタム工場

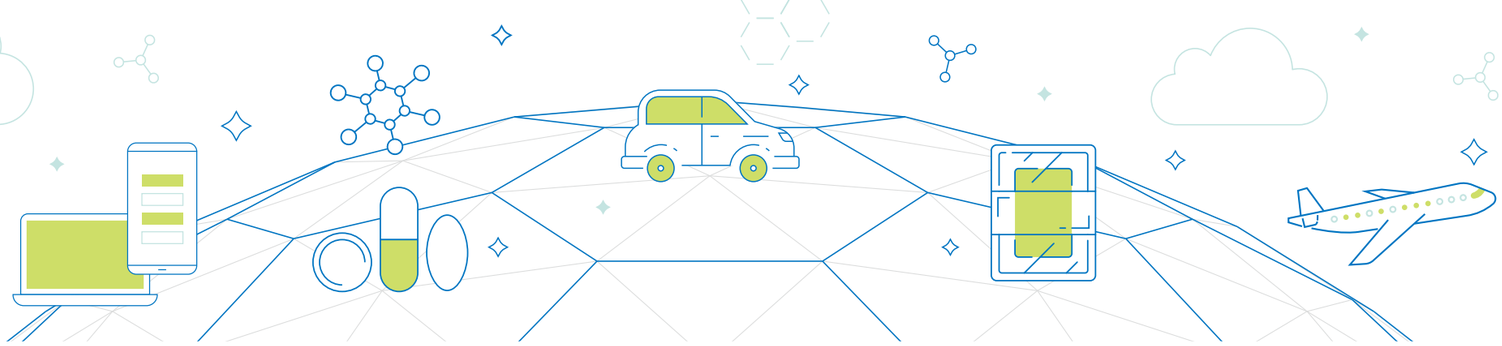
Ⓓ ポリイミドフィルム

Ⓔ DMC製造設備

Ⓕ 大阪研究開発センター

UBE グループ会社

総合力 × グローバルで スペシャリティ化学の可能性は さらに、未来へ



UBEグループは、日本国内をはじめ、アジア、北米、欧州、南米など世界各地に拠点を構え、スペシャリティ化学を軸に事業をグローバルに展開しています。各地域に根ざした生産・開発・販売体制を強化し、最先端の技術とソリューションを提供することで、産業の発展に貢献。社会課題の解決と持続可能な未来の実現を目指します。
国内では、リチウムイオン電池材料、エラストマー、高機能樹脂、産業機械、セメントなど、多岐にわたる事業を展開。それぞれの分野でグループ会社が連携し、モノづくりの基盤を支えています。一方、海外では、北米・欧州・アジア・南米に広がるネットワークを活かし、各地域のニーズに応じたマテリアルソリューションを展開。技術革新を加速しながら、産業の成長と環境負荷の低減を両立させています。

主な国内グループ会社・事業内容

宇部エクシモ株式会社

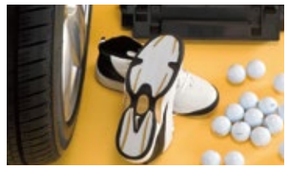
https://www.ube-exsymo.co.jp/

独自の樹脂高度加工技術を活かした樹脂製品や合成繊維、複合材料などの製造、加工、販売サービスを提供しています。

UBEエラストマー株式会社

https://www.ube.co.jp/elastomer/

合成ゴムおよびその原材料の研究開発、製造、販売を行い、世界各地に製品を供給しています。



宇部フィルム株式会社

https://www.ube.co.jp/ubefilm/

家庭用ラップや産業用フィルムなどプラスチックフィルム製品の製造・販売を行っています。

UBEマシナリー株式会社

https://www.ubemachinery.co.jp/

ギガキャスト用超大型機などのダイカストマシンや射出成形機をはじめ、各種産業機械の製造・販売・アフターサービスを展開しています。

宇部マクセル株式会社

https://www.ube.co.jp/maxell/

リチウムイオン電池用セパレータに関わる研究開発、製造、販売を行っています。

UBE三菱セメント株式会社

https://www.mu-cc.com/

セメント事業やその関連事業である生コンクリート事業、石灰石資源事業、環境エネルギー関連事業などを展開しています。

海外グループ拠点・主な所在都市

北中米地区

米　国	●ミシガン ●ルイジアナ ●インディアナ ●カリフォルニア ●ノースカロライナ ●ニュージャージー ●コネチカット
カナダ	●ノバスコシア
メキシコ	●メキシコシティ ●グアナフアト

南米地区

ブラジル	●サンパウロ

欧州地区

スペイン	●バレンシア
ドイツ	●ノルトライン・ヴェストファーレン
ベルギー	●ブリュッセル
オランダ	●リンブルフ
イギリス	●ランカシャー
イタリア	●ラツィオ

アジア・オセアニア地区

タイ	●バンコク ●サムットプラカーン ●ラヨーン
インド	●ハリヤーナ ●マハーラーシュトラ
中　国	●上海 ●江蘇
台　湾	●台北
韓　国	●ソウル ●忠清南
オーストラリア	●シドニー

UBE America Inc.（アメリカ）

UBE Corporation Europe, S.A.U. UCEナイロン工場（スペイン）

UBE Corporation Europe, S.A.U. 研究開発センター（スペイン）

UBE Technical Center (Asia) Limited（タイ）